

# 野の花館だより

2009/秋号 / No.53

日中はまだ30度を超す暑さですが、今週あたりから海からの風がさわやかな秋を感じさせます。皆さんお変わりありませんか?暑さは次第に収まっていくのでしょうか今度は台風が心配ですね。この風封じと五穀豊穡を願って、菅笠をかぶった踊り手たちの優雅な女踊り、勇壮な男踊り、豊年踊りを3日3晩にわたって披露する越中八尾のおわら風の盆の光景が懐かしく思い出されます。野の花館では、この夏最高に野の花館が輝いた「花いちもんめ」の公演が終わったところです。(2・3ペ - ジ関連記事) 残念ながら集まりは少なく、もったいないの声しきりでした。そんなに赤字でどうしてやるの?といわれなんでだろう・・・と考えました。ここに野の花館があり、野の花館でしかやれない公演だから・・・二人の会の演出力もさることながら明治大正昭和と日本の近代史を見続けた野の花館の醸し出す演技力も大したものだと思っています。野の花館は染色、みそづくり、いろいろ開き・・・と野の花館を生かした行事が続きます。

## 染色教室 9月26日(土) 草木染め

10:00 ~ 13:00

ひろがれひろがれエコナプキン(びわの葉で染める)

絹のハンカチ(玉葱の皮染め)

講師: 伊藤美穂子、岡田心平

参加費(材料費): 大人一人 500円

定員15名です。先着順(前日まで申し込み下さい。)

## みそづくり教室 (〃) 8名まで

10月10日(土)糀作り、17日(土)みそづくり

参加費(材料費)1000円程度

## 子どもの夕べ2009・いろいろ開き・国際交流・

(ミール)ミニコンサート開催

10月31日(土)13:00 ~ 16:00

ヴァイオリン&ピアノ・デュオ

ヴァイオリン(稲田竜斗) ピアノ(稲田由香里)



参加費 大人 1,000円 子どもは無料

\*一番、野の花館らしい行事といつも好評です。

大人から子供までどなたでも参加できます。

たくさんのご参加を期待しています。

# みやざき演劇祭

2009

## みやざき演劇祭 2009 参加作品

### 平和を考える集い 2009・「花いちもんめ」二人の会

宮本研・作 - 一幕 -

濱崎けい子主演

8月15日(終戦記念日) 開場19時 開演19時半

**戦争の悲惨さ訴え**  
濱崎さん一人芝居熱演

高 鋼

8/19

戦争に翻弄(ほんろう)された女性を描いた一人芝居「花いちもんめ」(作・宮本研)は、高鍋町・特定非営利(84)が熱演した。

平和を考える集いとして実を迫る演技で見せた。濱崎さんは、開拓花嫁として旧満州(中国東北部)に渡った女性・鈴屋を演じた。第2次世界大戦敗戦後、ソ連軍からの逃遁行の末に恩を病気で亡くし、娘を中国人に売らなければならなかった母の、悲痛な心情や後悔の念を、涙を浮かべる演技で見せた。

中国残留孤児となった娘が肉親を探すため来日した際、わが子を探してたことを悔やみ会いに行けないと嘆くシーンでは、涙を浮かべる演技も見られた。

高鍋町北高鍋、主婦岩切真理さん(57)は「満州から引き揚�た母を思いながら見た。子どもを失う気持ちは想像を絶する。戦争は本当に嫌ですね」と感涙を述べた。

濱崎さんは1988年からこの作品に取り組み、野の花館では96年から上演を始め、7回目「戦争の悲惨さを伝える意義ある舞台」今後も年一回は上演したいと話していた。

戦争に翻弄される女性を描いた一人芝居「花いちもんめ」を演じる濱崎さん



#### 中国残留孤児問題

中国残留孤児とは、1945年(昭和20)8月、ソ連の対日参戦とそれに続く日本の敗戦で混乱を極めた中国東北部(旧満州)において、家族にはぐれたり置き去りにされたりして中国人に育てられてきた日本人の子女をいい、その数は8,000人とも、1万人を超えとも言われている。

【孤児の来日と肉親さがし】中国残留孤児問題がにわかにクローズアップされたのは、1981年3月、日本政府の招きで孤児47人が肉親さがしのため初めて来日したことによる。“孤児”といっても若い人で36歳、平均40歳という人たちであり、もちろん日本語は分からない。しかし、この人たちが涙ながらに中国語で「生みの親に会いたい」と切々と訴える姿はテレビを通して全国に放映され、日本社会に異常な衝撃と感動を与えた。1982年3月には第2回(60名)、1983年3月には第3回(45名)の肉親さがしが行われた。

今回、公演にあたって・・・濱崎けい子

私が「花いちもんめ」に取り組んだのは、1988年のこと。その頃は、毎年中国残留孤児の日本への親探しのための日本訪問が国の政策として行われ、新聞・テレビも大々的に取り上げていた。

そして、1995年、戦後50年目の年から、この作品を可能な限り上演を続けようとしたころには、肉親にめぐり会える人も本当に少なくなり、そしていつの間にか残中孤児の日本訪問も取りやめになっていた。今年、戦後64年。広島・長崎の原爆投下、沖縄本土決戦、中国出兵、東京大空襲、などなど、実際に戦争を経験した方たちの大半が亡くなり、数少ない生存者も高齢化し、これまで口を閉ざしていた方たちが「伝えなくては」と重い口を開き始めたり、次の世代が伝えていく大事さが、今話題になっているように思える。

終戦の年に生まれた私。人として、役者として、この作品を上演し続け、戦争の悲惨さを伝えることの大切さを、改めて感じている。

公演を観ての感想・・・

感動的でした！ステージの使い方にびっくりしました。オープニング、エンディング、一つのドラマを強く感じました。また映画のように美しくも悲しいドラマを強く感じました。 37歳 男性

ずっと耳をふさいでいました(こわいから)。はまさきさんのえんげきはとてもよかったです。 10歳

私はまだ子供なので、意味が分かりませんでした。 11歳 女子

戦争を知らない人々が多くなっている今、もっともっとこんな話を聞かせられる機会がたくさんあったらいいと思いました。

11歳の娘と見ました。大人になった娘とまた見たいと思います。 女性

ありがとうございました！命.....etc. 考える時間になりました！

“中国残留孤児”という言葉はテレビや新聞で知っていましたが、このような詳しいことは今日初めて知りました。改めて“戦争の爪痕”は、まだまだ残っているなど実感したり、未解決のままにいつか時間が過ぎ風化していくのかと思うと、濱崎さんのような“伝える人間”の貴重さを痛感しました。 29歳 女性

あっという間の1時間でした。もっと多くの方に観てほしいと思いました。

平和すぎて普段考えませんが、今の自分達があるのは戦争で命をおとされた、そんな方々の犠牲の上にあるのだとつくづく思いました。

これからも平和であってほしい！舞台・照明素敵でした。準備等大変だったでしょう。お疲れ様でした。

濱崎さん若い!!!元気をいただきました。



## 第19回、ミール・ミニコンサート 6.28(日)14:00~15:00 “無伴奏・ソロ”

メロディーがきれいで、とてもいい勉強になったと思う。また、あった時は見にきたい、 女性

目の前で本格的な演奏が聴けるだけでも嬉しいのに、子供連れてOKなのは野の花館です。日々の生活に素敵なエッセンスをいただきました。 女性

ヴァイオリン

バッハ・・・美しい旋律で、すごくやさしい音色でした。

クライスラーのこの手の曲は初めてで新鮮でした。素敵なヴァイオリンを間近で聴けて幸せでした。

ピアノ

私はバレエが大好きで、先日クラシカジャパンでモーリス・ベジャール振付でジョルジュ・ドンとスザンヌ・ファレルの「ロミオとジュリエット」をやっていました。それを思い出しながら聴かせてもらいました。ラフマニノフの前奏曲も大好きです。 宮崎コール・フロイント団員 女性

クラシック...と少し身構えた感がありましたが、参加出来て良かったです。音楽に国境はないという意味が少し理解出来た時間でした。 女性

日曜の午後の昼下がりになんととてもいい時間をありがとうございました。ただ、以前観た時よりもお2人の笑顔が少なかったような印象を受けたのですが気のせいかな？

館の中で子どもたちがドタバタ走りまわるのはさすがに気になったので何か良い方法はないかなと思いました。気軽に誰でも来られることにこのミニコンサートの意味はあると思うし、かえって館の外で子ども達の遊ぶ声がするのは心地良かったのですが。根づいていくといいですね。 35歳 女性

## 郷土料理教室 7,4(土)10:00~13:00

### 宮崎の夏の味覚、冷汁とクロ蒸しパンを作りました。

#### A.冷や汁

暑い夏の日、多忙な農作業時の食事としてそれぞれの家庭の味が個性的…。早々と済ませるために青じそ、きゅうり、ねぎを細かく刻み、冷たい井戸水で冷やした味噌汁とともにご飯にかける。

【作り方】イリコの頭と腸を取り除き、乾煎りする。すり鉢でイリコをよく搥り、ゴマをいれ更によく搥り、次に味噌を入れてよくすり合わせる。これを鍋の底の広いもので焦げ目をつけながらゆっくり焼く。きゅうり、青じそ、小ねぎ、豆腐を刻む。

【材料】イリコ100g2袋 ごま100g みそ1kg、きゅうり、青じそ、小ねぎ

黒木さんが作る蒸しパンは黒砂糖をつかわない???

はじめ、作って持ってきてもらってる間はみんな黒砂糖とばかり思っていた。

白砂糖が化学変化である色に成ると聞いてびっくり…もうひとり高鍋生まれ高鍋育ちのHさんは三温糖を使うという。宮崎平野の基本食・その地で採れるものでおやつを作っていたころ生まれたおやつがその時期その時期の手に入りやすい材料で変わってきたのではないだろうか…



## 育児だより

\* 伊藤兄弟 \*

伊藤 美穂子

今年の夏はキャンプで始まった。夏勢、父さんチームと友樹、母さんチームに分かれてそれぞれ別のキャンプへ行った。帰ってきてから、それぞれの経験を話し合った。昨年までは、キャンプに一家まとまって動くのが基本だったからなんだか新鮮だった。

夏勢は、もう4年生だし、いつまで家族と一緒に行動できるかな、と思う。

もしかすると、あと2,3年かもしれない。今を大事に楽しみたい。

友樹にいちいち手がかかる。

(もちろんキャンプへ行った時も...)

なんで歯みがきするだけで部屋中おいかけま

わさなくてはいけないのか、

なんで朝のしっこに連れて行くだけで、阿鼻叫喚な

すさまじいドラマが展開してしまうのか、

でも、友樹はかわいい、ぎゅうっとだっこすれば

さっきまでのわがママもふきとぶ、



\* かんきつ姉弟 \*

金丸 智子

長かった夏休みも終わりが見えてきてホッとしたところです。

この夏はなんかヤル気のない(いや、いつもかも)日々でした。特に家では、片付けなきゃならないのに、進まないこと進まないこと！あまりのモノの多さに自分でもびっくりでした。まあ、気長にやろうかねえ。

さて、この夏の再認識。それは、うちの子らで一番うるさいのは長男だってこと。レベルは10才下の朔と同じで、大きいだけにたちが悪い。朔が泣いている時はほぼ蕉耶がからかっている時。

おとなしくしている時ですら、後ろからこづいて

必ず気を引こうとしている。ああ、やだやだ・・・。

うちの子の中で大人なのって、千夏かも。

みんなのバランスを取ろうとしてくれるしね。

朔はちいがないと弱いし。

今のまんま素直に大きくなってねん。

日帰りで阿修羅を観てきました！！

人が多かった～。本物はやっぱりキレイ。

長い時間を経て目の前に有るのがとっても不思議。

チビ二人にも何か残ったみたい。

行って良かったです。



## 事務局日誌より

6/26(金)19:00～6月定例会  
6/28(日)14:00～ミールミニコンサト  
7/04(土)10:00～郷土料理教室  
7/15(水)7/22(水)みんなの暮らしF実行委員会(町社協)  
7/17(金)19:00～7月定例会  
8/11(火)19:00～8月定例会  
8/15(土)19:00～平和を考える集い2009(花いちもんめ)公

## これからの予定

9/26(土)染色教室 10:00から  
10/10,17(日)10:00から みそづくり教室  
10/31(土)13:00から 子どもの夕べ09  
いろいろばき、ミールミニコンサート他

新潟・越後妻有「大地の芸術祭」に行つて・・・。3年に一度のアートのお祭りです。

このお祭り、まちのあちらこちらにアート作品が点在しています。760km<sup>2</sup>という広大な範囲での芸術祭です(なんでも、東京23区より広いとか広くないとか)。それらの作品は、棚田の途中に作品があったり、空き家や廃校になった小学校が丸ごと作品になっていたり、後ろの山々がそのまま作品の背景になっていたりと、それはそれは車を走らせながらもわくわくしっぱなしでした。

越後妻有は思っていた以上にのどかな場所でした。とても山奥なのです。冬はかなり雪が積もりそうなところでした。場所によっては、ぽつりぽつりと集落があるのみで、集落と集落を結ぶ細い山道は緑と空だけが延々視界に広がる、そんな風景でした。それでもこのお祭りを見たくて、全国、そして海外から人が来ていました。

「きっと作家さんもこの場所がとっても気に入ったんだろうな。」と思わせるような、居心地良さげな作品ばかりでした。見た作品はどれも、そこにあたりまえのように存在していて、違和感がありませんでした。ほとんどの作品はすごく田舎な風景の中にあるのに、自然の中に寄り添うように作品がたたずんでいる、そんな印象を受けるものばかりでした。また、そういう場所を提供してくれている地元の人たちの暖かさがそこかしこに伝わってくるお祭りになっていたと思います。きっと主催者側も地元の人たちを一番に考えて始めたお祭りなんだろうなと思います。こういうことをやるときは最初に地元の人たちの理解を得るまで、きっとかなり大変だったと思います。空き家や小学校には受付の人がいますが、ほとんどが地元のおじちゃんやおばちゃんです。「自分の通っていた小学校がこうやって生まれ変わってくれて嬉しい。(廃校で)壊されなくてよかった。」と言っておじいちゃんがニコニコと座っています。地元の人にしてみれば、少なからず今までの生活にちょっとだけ面倒くさいことが加わったことは間違いないと思うのですが、そんなことよりも過疎のまちが生まれ変わった喜びのほうが大きいのかもしれません。そんな地元の人が多く関わっているせいもあってか、アートに対する敷居も低く、誰もがこれらのアートを自由に感じて自由に楽しむ雰囲気がありました。

とても素敵なお祭りでした。どこへ行つても、居心地の良いのと、此所ではしか見られないという贅沢な気持ちでお腹いっぱいでした。「ここでしか見られない」、「ここでしかできない」という贅沢に出会える場所は、野の花館もきっとそうでしょうね。そんな豊かさが生まれる場所はいま、都会(中央)ではないという気がとてもします。大地の芸術祭へ行つて改めてそのことを強く思いました。野の花館も、ときには蝉の鳴き声を聴きながら、竹やぶのざわめきを聴きながら、子どもたちの声を聴きながら、その場所ではしか味わえない時間、空間を、みんなで共有できる場所として、これからも居心地よくたたずんでくれていたらな、と勝手に願っています。

f・n 記

### 野の花館へのご支援感謝します!

2009年度分会費、寄附金をよせてくださったみなさまです。

(09.6.1.～09.8.16.受け入れの方々)[順不同、敬称は省略させていただきました]

池田育子、井出泰子、伊藤ミユキ、海老原次子、岡山勇、柿原サエ、梶原やす子、川南幼稚園、金海純子、塩田幸代、杉本和宏、曾我恭子、多賀学英、高畑保、十住ミツ子、富田高明・快子、友成昌亮、永井悦子、永井賤子、永井寛子、中武夢未、中武よし子、永田多加子、長友早苗、中野由紀子、永山由美好、納富俊郎、則松文子、橋本律子、濱崎恵子、林真美、松田くるみ、水野英子、水野亮、水元早苗、宮澤厚・里美、山内洋子

ありがとうございました。

〒884-0002 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 2664

phone & fax: 0983-23-0701

ご意見ご感想ご質問などお寄せください、

宛先: 特定非営利活動法人 野の花館